

会 議 記 録

会議名 予算特別委員会産業教育分科会

開催日 令和8年3月9日（月） 開会 午前10時25分

閉会 午前11時43分

出席者 委 員 分科会長 福 富 善 明

雨 宮 茂 樹 針 谷 育 造 青 木 一 男

針 谷 正 夫 氏 家 晃 大阿久 岩 人

議 長 梅 澤 米 満

傍 聴 者 小太刀 孝 之 小 平 啓 佑 大 浦 兼 政

古 沢 ちい子 大 谷 好 一 内 海 まさかず

小久保 かおる 福 田 裕 司 関 口 孫一郎

事務局職員 事務局 長 森 下 義 浩 議事課 長 野 中 繭実子

主 査 村 上 憲 之 主 査 田 島 沙由理

委員会条例第21条の規定に基づき出席を要求した者の職氏名

産 業 振 興 部 長	高 野	義 宏
教 育 次 長	五 十 畑	肇
農 業 委 員 会 事 務 局 長	熊 倉	宜 和
商 工 振 興 課 長	糸 井	孝 王
観 光 振 興 課 長	佐 藤	光 三
農 業 振 興 課 長	丸 山	浩
農 林 整 備 課 長	大 塚	和 美
参事兼産業基盤整備課長	上 岡	豊
教 育 総 務 課 長	飯 島	彰
参事兼学校教育課長	堀 江	真 哉
学 校 教 育 課 長	宮 堀	純 也
グローバル教育推進室長		
学 校 施 設 課 長	國 府	泰 浩
保 健 給 食 課 長	寺 内	晴 子
生 涯 学 習 課 長	長 澤	紀 恵
文 化 課 長	横 倉	悟 史
美 術 ・ 文 学 館 課 長	高 久	一 典
農 業 委 員 会 事 務 局 次 長	高 久	完 治

令和 8 年第 2 回栃木市議会定例会
予算特別委員会産業教育分科会議事日程

令和 8 年 3 月 9 日 産業教育常任委員会終了後 全員協議会室

- 日程第 1 議案第 8 号 令和 8 年度栃木市一般会計予算（所管関係部分）
日程第 2 議案第 13 号 令和 8 年度栃木市栃木インター西産業団地特別会計予算
日程第 3 議案第 14 号 令和 8 年度栃木市平川産業団地特別会計予算
日程第 4 議案第 8 号 令和 8 年度栃木市一般会計予算（所管関係部分）

◎開会及び開議の宣告

○分科会長（福富善明君） ただいまの出席委員は7名で、定足数に達しております。

ただいまから予算特別委員会産業教育分科会を開会いたします。

（午前10時25分）

◎諸報告

○分科会長（福富善明君） 当分科会に送付された案件は、各分科会議案等付託区分表のとおりであります。

◎議事日程の報告

○分科会長（福富善明君） 本日の議事日程は、お手元に配付のとおりであります。

なお、本予算に対する説明は、3月4日に開催された特別予算委員会及び各分科会説明表の貼付をもって済んでおりますので、分科会での説明は省略いたします。

また、分科会では質疑のみを行い、討論、表決については3月17日火曜日に開催される全体会において実施いたしますので、よろしくお願いいたします。

お諮りいたします。本分科会につきましては、各部署及び会計ごとに歳入歳出等を一括して審査したいと思います。これにご異議ありませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○分科会長（福富善明君） ご異議なしと認め、そのように決定いたします。

◎議案第8号の上程、質疑

○分科会長（福富善明君） 日程第1、議案第8号 令和8年度栃木市一般会計予算の所管関係部分、産業振興部、農業委員会事務局を議題といたします。

なお、質疑に際しましては、分科会説明表の産業振興部・農業委員会事務局を御覧の上、所管部分のご確認をお願いいたします。

また、一問一答の方法により、予算書のページ数もお知らせ願います。

質疑はありませんか。

雨宮副分科会長。

○副分科会長（雨宮茂樹君） よろしくお願ひします。

239ページ、中小企業等奨学金返還支援補助金ということで90万円ですか、上がっておりますけれども、昨年度ゼロということで、新規事業ということなのでしょうか。お願いします。

○分科会長（福富善明君） 糸井商工振興課長。

○商工振興課長（糸井孝王君） 令和８年度からの新規事業になります。

○分科会長（福富善明君） 雨宮副分科会長。

○副分科会長（雨宮茂樹君） 内容を少し教えていただければと思います。

○分科会長（福富善明君） 糸井商工振興課長。

○商工振興課長（糸井孝王君） 従業員の奨学金返還支援を実施している市内中小企業等に対しまして、当該支援に係る経費の一部を補助するものでございます。目的としましては、市内に定着する人材の確保及び市内の中小企業等の雇用促進を図ることを目的としております。

以上です。

○分科会長（福富善明君） 雨宮副分科会長。

○副分科会長（雨宮茂樹君） ありがとうございます。

若手の確保であったりとか、新規の新卒者の雇用について、すごく有効だと思うのですが、一部を補助ということで、実際、どれぐらいの金額を補助されるのか、お願いいたします。

○分科会長（福富善明君） 糸井商工振興課長。

○商工振興課長（糸井孝王君） 限度額でございますが、１年度、従業員１人当たり10万円で、かつ１中小企業当たり30万円でございます。

○分科会長（福富善明君） 雨宮副分科会長。

○副分科会長（雨宮茂樹君） そうしますと、限度額が１人10万円ということで、限度額まで使うのであれば３人分までは補助するけれども、例えば半額の５万円分までだったら６人までいけるというようなニュアンスでよろしいですか。

○分科会長（福富善明君） 糸井商工振興課長。

○商工振興課長（糸井孝王君） 補助金の額ですが、こちら中小企業さんが従業員に返還支援した額の２分の１の額を補助することになりまして、その従業員１人当たり最高額が10万円までということでありますので、３名まで、１企業、30万円までが補助の対象になります。ですから、１人当たりの額が少なければ、もっと多い人数の支援ができるということになります。

○分科会長（福富善明君） 雨宮副分科会長。

○副分科会長（雨宮茂樹君） 分かりました。この額について、全体の額90万円というものに対しての、多いか、少ないか、ちょっと私も計り知れないところがあるのですが、算定の基準についてお伺いいたします。

○分科会長（福富善明君） 糸井商工振興課長。

○商工振興課長（糸井孝王君） 私どももちょっとこちら、どのぐらい実際支援がなされているかというところ、データを持っていないものですから、取りあえずということで90万円を予算化したというところでございます。

○分科会長（福富善明君） 雨宮副分科会長。

○副分科会長（雨宮茂樹君） そうしますと、年間使っていく中で足りなくなっていく可能性が出て、そういった場合には補正等していくという形でよろしいでしょうか。

○分科会長（福富善明君） 糸井商工振興課長。

○商工振興課長（糸井孝王君） こちらの年度始めに申請の申込みを受け付けまして、年度、どのくらい必要になるかという金額が分かると思いますので、もし足りない場合が生じましたらば、補正をしていくというようなことになります。

○分科会長（福富善明君） ほかにありませんか。

針谷正夫委員。

○委員（針谷正夫君） 関連してお伺いをいたします。

私の記憶が違ったらあれなのですが、これは若手経営団体から出た話を事業化したということでしょうか。

○分科会長（福富善明君） 糸井商工振興課長。

○商工振興課長（糸井孝王君） 委員さんのおっしゃるとおり、Y E Gですか、栃木商工会議所の青年経営者の方たちが政策提言ということでしていただいたものを参考に、私どものほうで事業化したということでございます。

○分科会長（福富善明君） 針谷委員。

○委員（針谷正夫君） 今3月だから、12月議会のときに商工関係の質問させてもらったときに、その中で、機動的にやっていきますという答弁だったかと思いますが、文字どおり、その主にある経済団体の意見をいただいて、大変機動的な対応してもらって結構なことだと思いますが、今後ともよろしくお願ひしたいと思います。これだと要望になりますので、一応回答を求めます。今後そんな姿勢で進めていただけるでしょうか。

○分科会長（福富善明君） 糸井商工振興課長。

○商工振興課長（糸井孝王君） そうですね。全て提言いただいたものを実現化するというのはなかなか難しいかとは思いますが、できるだけ多くご意向に沿った内容を検討しまして、事業化を進めていければというふうには考えております。

○分科会長（福富善明君） ほかに質疑はありませんか。

青木委員。

○委員（青木一男君） 239ページです。若者・女性活躍推進事業費・運営業務委託料です。これは新規事業ということになるかと思いますが。これは会派質問等があったかと思いますが、ある程度理解はさせていただいたのですが、その中で先進地視察研修が兵庫県豊岡市があります。この視察内容的な部分をお聞きしたいと思います。

○分科会長（福富善明君） 糸井商工振興課長。

○商工振興課長（糸井孝王君） この事業自体が、特に若い女性、20代、30代の女性の雇用環境とい

うものを改善していくということが主に大きな目的になっているのですけれども、同じようなことを先行して行っている自治体が、全国に、特に進んでいると思われるところが兵庫県の豊岡市、あるいは宮城県の気仙沼市、それと富山県の南砺市、この3つが特に進んでいる都市ということで認識しております。その3つの都市、どこか視察できればというふうには考えているところでございます。特に豊岡市が一番最初に始めて、進んでいるのですけれども、なかなか遠いというのもありまして、どこまで視察、足を伸ばせるかというような問題もありますが、取りあえず予算上は豊岡市への視察ということで計上はさせていただいているところです。

○分科会長（福富善明君） 青木委員。

○委員（青木一男君） すみません。ちょっと調査不足で申し訳ないのですが、豊岡市の先進事例、成功事例というのはどのようなものなのか、お聞きしたいと思います。

○分科会長（福富善明君） 糸井商工振興課長。

○商工振興課長（糸井孝王君） 豊岡市は、特にジェンダーギャップ解消というのですか、それを雇用の場だけではなく、地域においてもとか、そういう全体的な取組をしているところではあるのですが、その中でも先行して、まずは企業の中で女性の活躍ということで支援をしていこうということで、特に商工会議所が中心になって団体をつくりまして、その中でいろいろ実際に女性の雇用において問題があるところとか、そういったものを勉強会で抽出して、どういうことを解消していけばいいのか、どういう課題を解決していけばいいのかということで取組をしているところです。

○分科会長（福富善明君） 青木委員。

○委員（青木一男君） 先進事例、視察までされるということで、私がお聞きしているところでは、宇都宮市が、それほど大きくないかもしれませんが、そういった取組を始めようとしているとかという情報も入っております。ですので、やはり働き方が多様化している中で、SNS等も利用されると思うのですが、ぜひこれはしっかりと取り組んでいただきたいと思います。要望です。

○分科会長（福富善明君） ほかに質疑はありませんか。

針谷育造委員。

○委員（針谷育造君） 同じ239ページなのですけれども、上から3行目ですか、勤労者福祉サービスセンター補助金902万8,000円ということで、勤労者福祉サービスセンター補助金、これは相当歴史が長いと、私も思っているわけですが、現在加入企業とか、福祉サービスということになっておりますけれども、どんな内容かを教えていただければと思います。

○分科会長（福富善明君） 糸井商工振興課長。

○商工振興課長（糸井孝王君） こちらは厚生労働省の中小企業勤労者総合福祉推進事業に基づきまして、旧1市5町により設立された栃木市勤労者福祉サービスセンターになります。設立が平成12年9月18日となっております。今現在、2月1日現在の加入数になりますが、383の事業所が加入しておりまして、会員数は1,365名となっております。

基本、1人当たり、これは会費を月800円いただいております。事業内容としましては、健康の維持増進事業ということで、インフルエンザ予防接種補助であったり、人間ドック、脳ドックの受診助成、あるいは余暇活動事業ということで、スポーツ、レクリエーションのスポーツ大会の開催とか、あとは余暇施設の利用補助などをしているものでございます。

○分科会長（福富善明君） 針谷育造委員。

○委員（針谷育造君） 了解しました。

○分科会長（福富善明君） ほかに質疑はありませんか。

青木委員。

○委員（青木一男君） 247ページ、市単独農業農村整備事業費です。1,796万円が予算化されていると思いますが、その中で農道舗装工事費が2,000万円ですか、2,000万円という金額があります。これは農道舗装工事費は多分令和7年度はゼロだったかと思います。私は、農林整備のほうでこういった土地改良区等の道路の舗装というのは、今度、道路河川維持課のほうとすみ分けしてやっているのではないかというふうに思うのですが、その辺をちょっとお聞きしたいと思います。

○分科会長（福富善明君） 大塚農林整備課長。

○農林整備課長（大塚和美君） ただいまご質問いただきました農道舗装工事につきましては、一応土地改良事業を実施した区域内につきまして、我々農林整備課のほうで今後実施していくような形で予算のほうの計上させていただいております。

令和8年度につきましては、一応3路線を予定している状況でございます。なお、要望箇所につきましては、これまで約30本ぐらいいただいておりますので、そちらを順次、緊急性であったりとか、必要性を検討しながら進めていきたいというふうには考えております。

○分科会長（福富善明君） 青木委員。

○委員（青木一男君） ちょっと確認なのですが、今までは生活道路と、そういった土地改良区の農道ですか、多分、分けないで、すみ分けがされていなかったという形で、今年度、令和8年度からですか、しっかりとすみ分けしてやっていくという形でよろしいでしょうか。

○分科会長（福富善明君） 大塚農林整備課長。

○農林整備課長（大塚和美君） 実際のところ、生活道路と農業用道路というものの分けも難しい部分もありますので、できれば我々も農業で本当に必要なところは進んで、優先的に整備していきたい。生活道路だと、どうしてもかぶるところはやはり協議が必要かなというふうには思っています。ただ、できるだけ農道舗装も進めていきたいと考えておりますので、今後ともよろしく願いいたします。

○分科会長（福富善明君） 青木委員。

○委員（青木一男君） この取組は、私はすごくいい取組ではないかなと思っています。住民の方からすると、生活道路、農道というのは関係ないのです。ですので、やはり行政側がその辺を横の連

携をしっかり取って、取り残しのないように、ここは農林だから、ここは道路だから、ここは上下水道だからと。ちょっと例がありまして、上下水道は舗装しました。ただ、ある部分が道路河川維持なのか、農林整備なのか、分からないところに残っているのです。あれは何でなのというふうに、住民からの声がありました。ですので、やはり横の連携をしっかり取っていただいて、本当に50メートルぐらい整備が残ってしまっているのです。そこが多分300メートルあったと思うのですけれども、そういうのがやはり住民の方だと理解できない部分がありますので、その辺をしっかりしていただきたいと思います。道路河川維持課はずっと2億円ですか、整備費用がこの道路に使われているということなのですが、ぜひ農林整備のほうでもその辺は財政課にしっかりと事情を言っていただいて予算化していただければと思います。

以上です。

○分科会長（福富善明君） 針谷正夫委員。

○委員（針谷正夫君） 常任委員会で先ほど質問しました新規就農サポート事業のことについて関連の質問をいたします。

今回、先ほど予算については結構ですということで、その根拠は何なのだというみたいな質問をいたしました。きちんと令和7年度の予算説明書にもうたっておりまして、令和6年度の実績が5,100万円だったので、その伸びを期待して6,300万円にしたのだと。そうしたら、今回、余りが出て、さあ、来年度、今年度、この予算どうするということで、それを勘案した数字になっていると思われる6,059万8,000円を計上しているということで、いろいろご苦労されているということはよく分かりました。ですから、例えば説明の際に決して余計なことをしゃべらないということが行政の原則に私は思っております。聞いたことしか答えない。しかしながら、私は、今回ここにこういう形でありますというふうに示したのであれば、皮肉ではなくて、針谷さん、そんなの読んでいないのかなとか、書いてあると思いながらも、ここに書いてあるようにとか、示したようにというふうな言い方をされると、非常に聞いているほかの人も分かりにくいとか、そこに全部書いてありますので、改めて説明させていただきますというふうな答弁をいただけると、非常に150点ぐらいあげてもいいかなと思っていますので、今後、ほかとの絡みもあるので、一概に言えませんが、私はそんなふうに感じて、何でこんなにしっかりやっているものをしっかりと説明しないのだというふうに思いましたので、そんなことで、今回の予算はよく分かりましたので、足りなくなって補正を出すぐらいの勢いでやっていただければと思います。これについては了解いたしました。

以上です。

○分科会長（福富善明君） 丸山農業振興課長。

○農業振興課長（丸山 浩君） 予算につきましては、針谷委員の話はもっともだと思っております。あと、予算つくるときにも、係員は苦労して、どれだけ見込めばいいかというところをやっておりますので、今回、多少、下がった予算になっておりますが、令和7年度が反映されるというところ

もございますので、その辺については担当のほうでもしっかり積み上げてきているものですから、そういった形で説明のほうもしていきたいと思いますので、よろしくお願いいたします。

○分科会長（福富善明君） ほかに質疑はありませんか。

青木委員。

○委員（青木一男君） 259ページ、とちぎ秋まつり負担金です。1,950万円ですか。2年に1回行われている秋まつりです。令和6年度までは3日間にわたって行われたと思いますが、今年度から2日間という形なのですが、基本的な部分ですが、その理由をお聞かせ願いたいと思います。

○分科会長（福富善明君） 佐藤観光振興課長。

○観光振興課長（佐藤光三君） お答え申し上げます。

今回の秋まつりは2日間ということでございます。その経緯でございますが、4つございます。まず1つ目が、平日に開催するといった場合に、会社勤めの方の都合がつきにくいということで、各町内などでまつりの担い手を集めるのに苦慮しているという課題がかねてからございました。それが1つ目でございます。

2つ目は、こども山車まつり、これに参加した小学3、4年生の保護者から、平日よりも土日のほうが都合がつきやすく、土日にこども山車まつりを開催すれば、家族で祭りに行くことができるので、ありがたいという意見が出ているというのが、これが2つ目になります。

3つ目は、子供を送迎するバスの手配が非常に厳しい状況にありまして、コロナ禍の影響でバス会社では運転手や車両が、コロナ前より減少しているという話も聞いております。それに加えて、11月は行楽シーズンということで、それらと重なりまして、令和8年の秋まつりの際にはバスの手配が非常に難航いたしました。最初の見積り合わせでは応札者がいなくて、個別に事業者に交渉して準備を進めまして、県外のバスまで当たりましたが、それでも足りない状況で、旅行会社にも当たって、ようやくそろいまして、何とか開催することができたところです。それが3つ目です。

4つ目は、バスの費用が高騰しておりまして、令和6年秋まつりでは、こども山車に係るバスの費用が430万円と非常に大きな支出となってしまったためです。そのようなことから、2日間開催というような運びとなったところでございます。

以上です。

○分科会長（福富善明君） 青木委員。

○委員（青木一男君） 様々な要望、要因があつてということと予算的な部分でということで、3日を2日にしたということは理解できました。多分プラスのほうが多いから3日を2日にしたと思うのですが、それによって生じるマイナスの部分と言ってはちょっと語弊あるかもしれませんが、そういったものはちょっとお考えというか、何かあるでしょうか。

○分科会長（福富善明君） 佐藤観光振興課長。

○観光振興課長（佐藤光三君） 2日間にするというので、1つ考えられるのが、こども山車まつ

りは今まで平日の金曜日に学校行事として開催をしておりました。各学校、3、4年生は全員参加というような形で、学校の行事として行っていたのですが、今度、土日になりますと、学校行事ではなくなりますので、そうしますと参加されないお子さんも、場合によっては出てくるかなというようなことは考えておりますが、一応昨年アンケートを取りまして、学校の保護者の方にアンケートを取りまして、土日に開催する場合に参加しますかということでアンケートを取ったのですが、全員ではないのですが、約8割の方が参加しますというような回答をいただいておりますので、その辺りは少し安心したかなというようなことで考えております。

以上です。

○分科会長（福富善明君） 青木委員。

○委員（青木一男君） そうですね。小さなお子さんたちが参加していただいて、しっかりとこの秋まつりを伝承していただけるということ、その辺をぜひ継続していただきたいと思います。

それと、令和6年度と令和4年度ですか、予算が1,700万円だったかと思います。今回は1,950万円という予算になりましたが、その増額の理由をお聞きしたいと思います。

○分科会長（福富善明君） 佐藤観光振興課長。

○観光振興課長（佐藤光三君） 負担金の増額の部分でございますけれども、前回の秋まつりとその前の令和4年の秋まつりの際にはシャトルバスの費用をこの執行委員会からではなくて、別途、市の予算で計上して支出した経緯がございます。いろいろとバスの高騰もありまして、なかなかその実行委員会の中だけではちょっと厳しい状況もあったりしたものですから、市のほうの予算でシャトルバスの対応をしたところがございまして、今回はその市で負担していた部分を実行委員会の負担金のほうに付け替えまして、その分が増加しているということになっております。

以上です。

○分科会長（福富善明君） 針谷正夫委員。

○委員（針谷正夫君） 247ページの一番下にある地籍調査事業費についてお伺いをします。

まず、これはどこの地域の地籍調査になるのか、お尋ねをいたします。

○分科会長（福富善明君） 大塚農林整備課長。

○農林整備課長（大塚和美君） 地籍調査事業につきましては、現在実施している地区はございませんが、以前に実施しました藤岡町の部屋地区におきまして、国のほうの認証作業がまだ済んでいない部分がありますので、この認証作業を進めていきたいというのと、もう一地区は、岩舟地域におきまして以前地籍調査を行った地区での誤謬訂正が必要になっている地区が出てきておりますので、そういったものを実施する委託料となっております。

○分科会長（福富善明君） 針谷委員。

○委員（針谷正夫君） 分かりました。岩舟では地籍調査事業が以前に行われたという話は聞いております。そして、所管から離れないと思うのですけれども、地籍調査事業というのは県内ではどこ

もやっているところがないということのご答弁だったですか。

○分科会長（福富善明君） 大塚農林整備課長。

○農林整備課長（大塚和美君） 栃木市としては取り組んでいないということです。

○分科会長（福富善明君） 針谷委員。

○委員（針谷正夫君） これ地籍調査費というのが膨大な予算額ということは承知をしておりますが、もう少し地籍調査費を攻撃的に使ってもいいのではないかというか、それは全体的な話になるのだけれども、所管がここだとすれば、そういった取り方も、財政が豊かでないときでないと、例えばこちらに開発業者といますか、そういう人にとっては時間が物すごくかかってしまって、だから地籍調査があればすぐにかかれるということになるので、以前に何かやっていたような感じも、たまたま土地改良事業が多かったの、度々出てきたのか、お尋ねします。

○分科会長（福富善明君） 大塚農林整備課長。

○農林整備課長（大塚和美君） 地籍調査と同じように、土地区画整理事業とか、あと土地改良事業、整備したものも登録していけば同じような成果が出るという形で、担当課でそれぞれ事業したものを制度化していくというような状況もあります。だから、全てが全て地籍調査だけで整備していくというのではなくて、面整備を行った地区は、その成果をもって地籍調査と同じような成果が得られるような対応になっていましたので、栃木市として区画整理事業とか土地改良事業を実施した地区につきましては、それと同じような形で進められてきたというところがあるかと思います。ただ、合併前の藤岡地区では地籍調査を進めていました。

○分科会長（福富善明君） 針谷委員。

○委員（針谷正夫君） そうしますと、地籍調査はあくまでも農林、田んぼの調査だということで、土地改良事業が行われたときにのみ、追認でこの地籍調査をやるということであると、土地改良したところは開発行為がなかなかできないということになると、まちづくりのためには非常に遅れるというみたいな感じであるのではないかと思いますので、こっちが音頭を取って、財政、豊かになっている時代かどうか分かりませんが、そういうふうな取り組み方も必要なのではないかと思います。意見なのですが、その辺、伺います。

○分科会長（福富善明君） 大塚農林整備課長。

○農林整備課長（大塚和美君） それぞれの事業、やはり目的があって事業を実施していきますので、土地改良事業はやはり農地を守っていく。土地区画整理事業は土地利用の促進という形で、土地利用がどんどんされるように、開発も含めて進めるようにという形なものですから、地籍調査自体で地籍を固めるということ自体も全体的には必要なことで、今後、土地利用されるにつきましては許可確認が省略できたりとか、そういったもののメリットはあるのですけれども、なかなか市でそこまで今実施できるというところまでは至っていませんので、今後、必要に応じて進めていければというふうには考えておりますけれども、なかなか難しい状況であります。

○分科会長（福富善明君） 針谷委員。

○委員（針谷正夫君） 分かりました。農業関係の部分については、そういったことで了解いたしました。

○分科会長（福富善明君） ほかに質疑ありませんか。

大阿久委員。

○委員（大阿久岩人君） 245ページ、6款1項4目の一番下なのですが、防災重点農業用ため池という形なのですが、ここで聞きたいのは、防災重点農業用ため池整備事業というのは、この両方に当てはまらないところに予算はつかないということですか。

○分科会長（福富善明君） 大塚農林整備課長。

○農林整備課長（大塚和美君） この事業につきましては、農業用ため池の中でも、やはり決壊した場合に被害の大きいため池につきまして、防災重点農業用ため池として指定した25か所が対象となって進めている事業でございます。

○分科会長（福富善明君） 大阿久委員。

○委員（大阿久岩人君） それは過去に説明があったかというふうに承知しているのですが、過去は、要するに防災と農業用ため池の地域だった。今現在は、もう下に全部住宅街になって、そこにあるため池、そういうものは今後事業としては取りにいく方向なのですか。それとも、この25か所というか、それが終わったら終わりなのですか。

○分科会長（福富善明君） 大塚農林整備課長。

○農林整備課長（大塚和美君） 委員おっしゃるとおり、現に利用されていないため池や、また将来的に利用見込みがないため池につきましては、防災工事に代えまして廃止や統廃合、そういったものも今後見据えて対応していきたいというふうには考えております。地域の実情に合ったところを整備していきたいというふうに考えています。

○分科会長（福富善明君） 大阿久委員。

○委員（大阿久岩人君） 今の答弁ですと、統合していくとか。実を言いますと、場所をちょっと説明すると、國學院の中に昔は農業用ため池、そこに右左にあって、右側がきちっと整備されました。農業高校の裏に、やはり昔の農業用ため池、防災ということで、その辺は農業がもう使われていないから、整備はいいよというよりは、防災のことを考えたら、そっちが重点的だと私は思います。その辺はどのように思うか、お伺いいたします。

○分科会長（福富善明君） 大塚農林整備課長。

○農林整備課長（大塚和美君） 今委員がおっしゃったため池につきましては、ここが指定がなされていないため池でありますので、ちょっと現地のほう、もう一度確認させていただければというふうに思います。

○分科会長（福富善明君） 大阿久委員。

○委員（大阿久岩人君） 冒頭に申したように、指定されていないというのは承知の上でしております。ですから、防災、それと農業用ため池というものが両方絡まないと予算がつかない。そして、過去に25か所の指定を受けた以外は駄目だということになれば、そういうところを私は利用して、やはり下に全部人家ができた場合には、それは本当に貴重なため池ではないかなと。防災ため池ではないかなって、私は今しております。その辺について、少し考えがあれば回答お願いします。

○分科会長（福富善明君） 大塚農林整備課長。

○農林整備課長（大塚和美君） この事業につきましては指定が終わったから駄目だとか、そういう事業ではありませんので、必要があれば事業採択になるかと思いますので、調査のほうしてまいりたいというふうには思います。

○分科会長（福富善明君） 大阿久委員。

○委員（大阿久岩人君） 要望いたしますので、やはり重点の防災ということを考えたら、昔は農業用のため池かもしれないですが、人を守るには私は重要なため池だと思いますので、整備をよろしくお願いいたします。要望です。

○分科会長（福富善明君） 針谷正夫委員。

○委員（針谷正夫君） 関連して質問いたします。

この間の一般質問で、山火事を防いだ話と、あとは人家に飛び火しそうだったという話をしましたけれども、そういう意味では、山にも有用、里にも有用ということで、私も防災に必要な施設だと思っております。よろしく申し上げます。要望です。

○分科会長（福富善明君） 青木委員。

○委員（青木一男君） 関連です。

先ほどの防災重点農業用ため池の中で、主要事業の中で、詳細設計業務委託で、鷺巣溜下がありますが、その内容をちょっとお聞きしたいと思います。

○分科会長（福富善明君） 大塚農林整備課長。

○農林整備課長（大塚和美君） ため池ごとに以前に耐震調査とか、そういった地震による耐性、あとは豪雨による耐性、そういったものを調査してございます。そういった調査結果に基づきまして、堤体の強度を増す工事であったりとか、洪水吐けの強化をするような工事を実施していきたいということで、その設計に入っていきたいというふうに考えております。

○分科会長（福富善明君） 針谷育造委員。

○委員（針谷育造君） 関連で。25か所指定されたということでありまして、工事が調査委託してこういうふうに防災ため池という表示があります。そこはまだ工事していない。だから、工事をしているため池はあるのか。あるとすれば何か所なのか。25分の幾つになるのかということで、調査が幾つ、実施したため池工事は、私、ちょっと私の周りではないかなと思っているのですけれども、工事と委託なりなんなり、調査をした比率なりなんなりが、25か所のうちでそれぞれのく

らいになっているか、お聞きしたいと思います。

○分科会長（福富善明君） 大塚農林整備課長。

○農林整備課長（大塚和美君） ため池の劣化調査につきましては、25か所、もう既に済んでおります。工事につきましては、先ほどの補正予算で増額させてもらったとおり、今回工事に着手するのが初めてでございます。これから順次計画的に進めていきたいというふうに考えております。

○分科会長（福富善明君） ほかにありませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○分科会長（福富善明君） ないようですので、これをもって質疑を終了いたします。

ここで執行部の入替えを行います。少々お待ちください。

〔執行部退席〕

◎議案第13号の上程、質疑

○分科会長（福富善明君） 次に、日程第2、議案第13号 令和8年度栃木市栃木インター西産業団地特別会計予算を議題といたします。

なお、質疑に際しましては、分科会説明表を御覧の上、一問一答の方法により、予算書のページ数もお知らせ願います。

質疑はありませんか。

雨宮副分科会長。

○副分科会長（雨宮茂樹君） 595ページの主要事務事業にも挙がっております産業団地の造成事業費ですけれども、前にインター北と呼ばれているところは、事業としてはインター西として一緒にやるというようなお話があったと思うのですけれども、その部分を来年度、工事を始めていくというような認識でよろしいのでしょうか。

○分科会長（福富善明君） 上岡産業基盤整備課長。

○参事兼産業基盤整備課長（上岡 豊君） 今のご質問でございますけれども、栃木インター西産業団地造成、これは事業名はするように、特別会計に合わせるような表記をしておりますけれども、これは今後、栃木インターの北地区と呼ばれるところの工事を行うというようなものでありますが、取りあえず令和7年度、本年度につきましては、市街化編入というのが3月31日付で無事に行われる予定でございます、それが終わりますと、いよいよ次の段階に入るというようなこととなりますが、工事の前に、まだ用地の買収のための交渉ですとか、そのほか様々な設計、測量、そういったものもございますので、実際の工事に入るのは、それが終了した後というような状況であります。

以上でございます。

○分科会長（福富善明君） 雨宮副分科会長。

○副分科会長（雨宮茂樹君） そうしますと、今後のスケジュールについて、大まかで結構なのです

が、教えていただければと思います。

○分科会長（福富善明君） 上岡産業基盤整備課長。

○参事兼産業基盤整備課長（上岡 豊君） この北地区につきましては、先ほどお話をさせていただきましたとおり、主な流れといたしましては、今年度、市街地編入が終わりますと、その後は各それぞれの地権者のところに用地の交渉に当たっていきます。あとは、その後、結局物件の移転とか、そういったものがスタートするというような形になります。実際に用地の取得も来年からはスタートさせるというようなことでございますけれども、これの用地取得が無事に終わった後というような形になりますと、おおよそ約数年、5年ぐらいは工事完了までにはかかってしまうというふうな予定でございます。

実際に分譲というのは、その後、すなわち今が令和7年ということで、令和12年、13年辺りから分譲ができるような形に整備をしていきたいというふうな流れであります。

以上でございます。

○分科会長（福富善明君） ほかに質疑はありませんか。

青木委員。

○委員（青木一男君） 同じ、このあれですけれども、第1期工事、23ヘクタール、第2期工事で27ヘクタールということになっております。ここまで計画が進んでいるかどうか分からないのですが、そのNTTグローバルセンターのデータセンターが誘致されるということなのですが、その23ヘクタールの中で、実質、そのNTTグローバルセンターが面積ですか、割合、その辺まではっきりしていない部分があるかもしれないのですが、分かる範囲で結構ですので、お願いしたいと思います。

○分科会長（福富善明君） 上岡産業基盤整備課長。

○参事兼産業基盤整備課長（上岡 豊君） NTTグローバルデータセンターが今回取得した面積につきましては、街区が3つございまして、それぞれが4.5ヘクタールと6ヘクタール、それと2.5ヘクタール、その12.5ヘクタールを取得したというような状況にあります。13ヘクタールです。申し訳ございません。

○分科会長（福富善明君） 青木委員。

○委員（青木一男君） あくまでもこれから計画になるかと思うのですが、それよりもデータセンターとなると、印西市に視察に行ったときに、関連企業というのはあまり、サプライチェーンですか、そういったものはあまりない部分もあるのかなと思うのですが、そのグローバルセンター以外の企業誘致というのも、そういった関連企業、または多種業ですか、的なものというのはお考えになってはいるのでしょうか。

○分科会長（福富善明君） 上岡産業基盤整備課長。

○参事兼産業基盤整備課長（上岡 豊君） 今委員のほうでおっしゃられたとおり、関連企業等の誘致に関しましても、私たちのほうでは予定はしているところでございますけれども、この栃木イン

ターの部分に限らず、栃木市内の産業団地に限らず、そういった関連企業が立地できればというように考えております。その辺りも、今年度作成いたしました産業基盤成長戦略などで指定した企業誘導区域、あるいは地域未来投資促進法なども活用した形で、そういった関連企業も誘致できればというふうに考えております。

○分科会長（福富善明君） 青木委員。

○委員（青木一男君） 今回の予算の中で、その中で埋蔵文化財調査業務委託料が1億円になっておりますが、その詳細、調査内容と、これはどういった面積なのか。それとも、調査方法によってその金額が変わるのか。その辺の件もちょっとお聞きしたいと思います。

○分科会長（福富善明君） 上岡産業基盤整備課長。

○参事兼産業基盤整備課長（上岡 豊君） 私どものほうで分かる範囲のお答えということになります。場所的にはこのエリア内に2か所で、おおむね1つが半径600メートル、それと半径200メートルぐらいの遺跡があるということで、こちらのほうの調査を行うというような予定でございます。このぐらいしか、今の段階では分かりません。すみません。

○分科会長（福富善明君） 青木委員。

○委員（青木一男君） といいますと、これは栃木インター西産業団地に限ってなのですが、その以外に未来投資促進法とか、いろいろありますよね、企業誘致に対しての造成。そういったときも、栃木市全体にこういった埋蔵文化財調査というのは全域で行わなくてはいけないということなのでしょうか。

○分科会長（福富善明君） 上岡産業基盤整備課長。

○参事兼産業基盤整備課長（上岡 豊君） 埋蔵文化財の調査に関しましては、ちょっと私もその辺は実は理解していないのですが、産業団地については、そのエリア内の文化財については市のほうで、事業者のほう为主体となって調査するというふうな形で進めるということなので、インターだけではなくて、今後進めていく佐野藤岡をはじめ、その後に進める産業団地については市のほうで行うというふうな予定でございます。

ただ、未来投資法とか、企業誘導区域というのは、あくまでも市が指定したエリアであるということなので、実際には私どものほうでは、そこに関しては文化財の調査を行わないということです。

以上でございます。

○分科会長（福富善明君） ほかに質疑はありませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○分科会長（福富善明君） ないようですので、これをもって質疑を終了いたします。

◎議案第14号の上程、質疑

○分科会長（福富善明君） 次に、日程第3、議案第14号 令和8年度栃木市平川産業団地特別会計

予算を議題といたします。

なお、質疑に際しましては、分科会説明表を御覧の上、一問一答の方法により、予算書のページ数もお知らせ願います。

質疑はありませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○分科会長（福富善明君） ないようですので、これをもって質疑を終了いたします。

ここで執行部の入替えを行います。少々お待ちください。

〔執行部退席〕

◎議案第 8 号の上程、質疑

○分科会長（福富善明君） 次に、日程第 4、議案第 8 号 令和 8 年度栃木市一般会計予算の所管関係部分、教育委員会事務局を議題といたします。

なお、質疑に際しましては、分科会説明表の教育委員会事務局を御覧の上、所管関係のご確認をお願いいたします。

また、一問一答の方法により、予算書のページ数もお知らせ願います。

質疑はありませんか。

雨宮副分科会長。

○副分科会長（雨宮茂樹君） よろしく申し上げます。

303ページ、会計年度任用職員人件費で、今年度よりも1,200万円ほど予算額が上積みされておりますが、その要因についてお伺いします。

○分科会長（福富善明君） 堀江学校教育課長。

○参事兼学校教育課長（堀江真哉君） お答え申し上げます。

日本語指導員が1名増えたことと、それから教育支援相談員が2名増えるという形で、任用が増えるという形になっております。

以上です。

○分科会長（福富善明君） 雨宮副分科会長。

○副分科会長（雨宮茂樹君） 産業教育常任委員会からの要望の中にも、この会計年度任用職員人件費について、適正な人員配置をとということで要望させていただいております。この中では、今、配置数が令和6年度、61ということでありましたけれども、来年度については要望数に近づけるように努めてまいりますというふうに、ここの対応状況には書いてありますが、今の答弁でいただいたような感じで、指導員、支援相談員を増員したということによろしいですか。

○分科会長（福富善明君） 堀江学校教育課長。

○参事兼学校教育課長（堀江真哉君） お答え申し上げます。

学校支援員につきましては、学校の要望数に近づけていきたいという思いはございます。ただ、先ほど申し上げました日本語指導員につきましては、外国人児童生徒がこのところ急増しております。まずこちらの指導員を1名増員させていただきました。また、教育支援相談員につきましては、次年度から不登校対策で、メタバースという仮想空間での児童生徒支援を行うということを始めようと思っております。そのための対応する指導員を2名確保したいという思いから、こちらを優先させていただきました。今後とも支援につきましては、学校の要望数に近づけていけるように、少しずつ取り組んでいきたいと思っております。次年度につきましては、先ほど申し上げました3名のほうを増員させていただきたいと思っております。

以上です。

○分科会長（福富善明君） 雨宮副分科会長。

○副分科会長（雨宮茂樹君） ありがとうございます。

支援員の増員については、毎回、私、発言をさせていただいております。ぜひとも取り組んでいただきたいというふうに思っております。

また、一方で、今おっしゃられたような不登校対策、四百数十名の方が栃木市でも不登校というところであると思いますので、しっかりと取り組んでいただきたい。

また、不登校でも、地域によっては、その成績に不登校中の勉強を盛り込むとか、そういったことも始まっておりますので、ぜひこういったメタバース等活用して、そういった取組をしていただければと思います。要望です。

○分科会長（福富善明君） ほかに質疑ありませんか。

針谷正夫委員。

○委員（針谷正夫君） まず、美術館企画展等開催事業費ということで、これはどこになるのでしょうか。10款4項3目。ごめんなさい。すみませんでした。

一番下に美術館管理運営費の企画展開催事業費というのが、中段から下ぐらいにあるかと思えます。この間、総括的な質問のときにも、初めにお話をして、学校の生徒が無償であるとか、あるいは先生もただですよということで、あるいは学校で出前講座みたいなのをやっていたのですが、これは全員が年に1回というふうな取組は、この中には入っていないのですか。

○分科会長（福富善明君） 高久美術・文学館課長。

○美術・文学館課長（高久一典君） 全員ではなくて、学校からの要望、手を上げて、出前授業であったり、美術館に観覧に来たりとか、そういう形でやらせてもらっています。

○分科会長（福富善明君） 針谷正夫委員。

○委員（針谷正夫君） そうしますと、学校の校長の裁量次第で、美術館への来訪する、しないは決まってくるということでよろしいのでしょうか。

○分科会長（福富善明君） 高久美術・文学館課長。

○美術・文学館課長（高久一典君） 美術・文学館のほうでは、なかなかそこまでちょっと強制というのでもできませんので、校長先生、我々のほうとしては、校長会のほうにも、企画展が開催されることにお知らせをした上で、ぜひとも児童生徒さんの観覧、授業の一環でも結構ですし、学校活動の一環でも結構です、ぜひご観覧いただきたいというお願いとチラシの配布で周知はさせてもらっております。

○分科会長（福富善明君） 針谷委員。

○委員（針谷正夫君） 学校と連携するということで、今おっしゃったようなことをお聞きました。しかしながらというか、例えば学校の校長、学校サイドにしてみれば、授業を潰されるという事情もあるかと思いますが、美術館を見るということは非常に子供のうちから美術館に行って、美のセンスを養うとか、あるいは買物の帰りに、親になったときにそういった美術館に行くというには、やっぱり子供のうちからそういったことが必要だと思います。だとすれば、学校時間ではなくて、夏休みにそんな取組を仕掛けていくという予算はこの中には全くないですか。

○分科会長（福富善明君） 高久美術・文学館課長。

○美術・文学館課長（高久一典君） 企画展のほうも、その企画展ごとにギャラリートークですとか、もしくは講演会とか、そういった関連するイベントは開いております。その辺の予算については展覧会のほうの事業予算に入っておりますが、そのほかに教育普及という形で、お子様向けのイベント、美術館に来てください、文学館に来てくださいというようなことで、年間を通してそのイベントの開催を計画して、その辺を、小学校が主なのですが、配布させてもらって、来館を促しているという状況です。

○分科会長（福富善明君） 針谷委員。

○委員（針谷正夫君） やはり子供の行くところに親はついてくると思いますので、ですから、より一層、そういった取組が、できる範囲で行っていただきたいと思います。

次、同じ項目で、この間、県のほうで、ちょうど一般質問の当日に出た新聞だったかと思いますが、社説、ここに記者さんいらっしゃいますけれども、社説として、美術館をもっと県レベルで活用しろというような話。ぜひともそういった形で進めていただければと思います。

○分科会長（福富善明君） 針谷正夫委員。

○委員（針谷正夫君） 同じページのふるさとの城郭群再発見事業費というものがあります。これも、この間、一般質問でその取っかかりを質問させていただいたのですが、あのときに新聞に出たのが、まさしく、今ちょっと間違っただけで発言をしてしまいましたが、いろんなお城の連携を県が音頭を取って連携を図っていけと、こういう内容だったかと思いますが、そういったものをこの事業の中でやっていけるのかどうか。ここのところに入れるのか。直接的にはないけれども、向こうの予算であれば、そこへ乗っかるみたいなことが、何かと絡めていくことにはなりませんか。

○分科会長（福富善明君） 横倉文化課長。

○文化課長（横倉悟史君） お答え申し上げます。

私もこの社説のほう読ませていただき、率直にそのとおりだなというふうに感じております。この件について、県に考え方を確認したところ、こちらのサイトは個別に文化財を取り扱っているということで、既に関連文化財群というのは別のサイトのほうで提示していますということで、そちらが、とちぎいにしえの回廊というホームページがあり、そちらのほうでは、お城であれば城跡だけのくくりで包括的なPRを行っているということでございます。

今後におきましても、ただ、ちょっと分かりづらい面ともありますので、こちらは県のほうに働きかけて、さらなる連携強化を図ってまいりたいと考えております。

○分科会長（福富善明君） 針谷委員。

○委員（針谷正夫君） そのことについては了解をいたしました。

そして、予算が172万6,000円ついて、この間、ちょっとその入り口のところでお話をさせていただきましたけれども、実際、保存活用計画を、地域の計画をつくっているといったことと思いますが、それで取組についてはまだ白紙というか、そういうことで、その件については全く触れられませんでしたけれども、この委員会でも、やっぱりその辺の考え方とか、ここに事業費として上げている以上は、何か論点等があればご答弁お願いしたいと思います。

○分科会長（福富善明君） 横倉文化課長。

○文化課長（横倉悟史君） お答え申し上げます。

当初予算のほうに計上しているのは、主にPRのためのシンポジウムの開催費を計上しております。保存活用計画につきましては、本格的には令和9年度から策定に入りたいということで、令和8年度はそのための準備作業を進める予定となっております。

○分科会長（福富善明君） ほかにありませんか。

青木委員。

○委員（青木一男君） 307ページです。学校施設LED照明器具賃借費、LED照明リース料なのですが、この詳細をお聞きしたいと思います。

○分科会長（福富善明君） 國府学校施設課長。

○学校施設課長（國府泰浩君） お待たせしました。お答え申し上げます。

この事業につきましては、学校の教室とか廊下、全てのものなのですが、その照明器具をLEDに更新するものでありまして、市内の小中学校39校が対象となります。こちらにつきましては、今年度、令和7年度中に全ての教室をLEDに替えまして、その支払い分、令和8年度の支払いになります。こちらにつきましては、令和6年度の6月議会で債務負担行為を設定させていただきまして、令和6年12月議会で財産の取得として議決をいただいたものでございます。こちらにつきましては、令和8年3月から令和18年2月までの10年間となります。

以上となります。

○分科会長（福富善明君） ほかに質疑ありませんか。

青木委員。

○委員（青木一男君） 321ページ、部活動地域展開事業費、これは主要事務事業になっていますが、ネーミングの件でちょっとお聞きしたいのですが、今回、令和8年度ですか、地域展開事業費となっていて、令和7年度は多分地域移行事業費だったかと思います。この名称の変更とその狙いというのをちょっとお聞きしたいと思います。

○分科会長（福富善明君） 飯島教育総務課長。

○教育総務課長（飯島 彰君） お答え申し上げます。

委員おっしゃるとおり、令和7年度につきましては、部活動地域移行事業費ということで予算のほうは要求させていただいております。令和8年度につきましては、部活動地域移行ではなくて、展開ということで、文化庁、スポーツ庁のほうから、もう移行期間ではなくて、もっと広く進めていくということで、展開ということで事業名が変わっておりますので、令和8年度予算についても事業名をそちらに合わせたというようなこととなっております。

○分科会長（福富善明君） 青木委員。

○委員（青木一男君） 移行から展開という形で、当然流れになるかなと思うのですが、特にそれに特化して、今後展開していこうとしている、力を入れていこうとしている部分をお聞かせ願いたいと思います。

○分科会長（福富善明君） 飯島教育総務課長。

○教育総務課長（飯島 彰君） お答え申し上げます。

令和7年度、今年度につきましては、10校の22部活動で、地域移行、展開したわけですが、令和8年度につきましては、中学校の統廃合もありますが、11校の25部活、そちらを移行したいということで、予算のほうは要求しているところでございます。

以上です。

○分科会長（福富善明君） 青木委員。

○委員（青木一男君） ということは、令和7年度は成果があったということでの、今度、10校から11校、22から25ということでよろしいのでしょうか。

○分科会長（福富善明君） 飯島教育総務課長。

○教育総務課長（飯島 彰君） お答え申し上げます。

今現在、中学校が13校、来年度11校になりますが、栃木南中学校と東陽中学校、この2つの中学校がまだ地域移行になっていないところなのですが、令和8年度については、この2校を含めて地域移行。そうすると、全ての11校の中学校は移行していくという形で考えております。

○分科会長（福富善明君） ほかにありませんか。

雨宮副分科会長。

○副分科会長（雨宮茂樹君） 317ページの小学校就学援助事業費の中で、金額がかなり減額になっております。全体会の中で、給食費等が市費になるということでお話がありましたけれども、ほかの部分についてはこれは変更はないということでしょうか。

○分科会長（福富善明君） 飯島教育総務課長。

○教育総務課長（飯島 彰君） お答え申し上げます。

この分につきましては、該当者、対象者の増減は若干ありますが、大きなものとしては、やはり委員おっしゃるとおり給食費の、中学校もそうですが、給食費がなくなった分の減額となっております。

以上です。

○分科会長（福富善明君） ほかにありませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○分科会長（福富善明君） ないようですので、これをもって教育委員会事務局所管の質疑を終了いたします。

◎閉会の宣告

○分科会長（福富善明君） 以上で当分科会の審査は終了いたしました。

なお、分科会長報告の作成については、正副分科会長にご一任願います。

また、繰り返しになりますが、3月17日火曜日10時から予算特別委員会全体会議において分科会長報告、質疑、討論、表決を行いますので、よろしくお願いします。

それでは、これをもって予算特別委員会産業教育分科会を閉会いたします。

大変お疲れさまでした。

（午前11時43分）